

式 辞

本日、創立七十周年を迎えるにあたり、大変御多用の折、能美市長 井出 敏朗 様をはじめ、多数のご来賓をお迎えし、記念式典が開催できますことを、心より感謝し、お礼申し上げます。

本校は、昭和二十六年、校章の四つのペン先が示す四校、寺井野町立寺井中学校、吉田村立吉田中学校、粟生村立粟生中学校、久常村立久常中学校が統合してスタートし、七十年という歴史を積み重ねて参りました。

この間、寺井中学校を卒業されました一四、一四七名の卒業生は、地域を支え、また、様々な分野、場所で、大変に御活躍されています。今年、記念講演を予定していましたが、日本ハンドボール協会理事を務められ、ナショナルトレーニングセンターに勤務される河上 千秋さんもそのようなお一人です。

このようにご活躍されている方々をはじめ、多くの卒業生や現在の在校生、職員が心に留めているもの、常に羅針盤のように未来を示してくれているものが、校歌のくくり言葉でもある本校の校訓、「和して学ばん」「汗して生きん」「創造の力みがかん」であると思います。

この素晴らしい校訓が刻まれた、校訓額を同窓会より寄贈していただき、本日ご披露できることも、大変にうれしいことです。

令和三年度から中学校でも、新しい学習指導要領が実施されますが、平成二七年、学校教育の次の十年間を見据え示された「論点整理」の中に、私は本校の校訓を感じています。

そこには、「予測できない未来への対応を、我が事として向き合い、社会と自らの幸せな人生を創り出すために、学んだ知識を礎としながら、仮説を立てその解決を目指すことや、また、他者と協働して新たな価値を生み出すことが求められる」とあります。

昨年度末から、そして現在もなお続いているコロナ禍の状況は、まさに「予測できない未来」ではありますが、この間、生徒とともに現状を嘆かず、あきらめず「今だからこそできること、感じること」を求め、知恵を絞りながら、普段ではきっと感じ得なかった深い体験や、密度の濃い時間を過ごすことを大切にしてきました。

本日午後開催される文化祭も、工夫の中で現状を克服し、今の生徒の思いを、スローガン「"ピース～今こそ心でつながろう～"」に託して開催されるものです。

このような経験が、本校にとって、今後、更なる発展の礎になればと願っています。

今日この日を新たな節目として、このような時代を生き抜く子どもたちに培うべき力を、学校教育に求められる期待や、その責任の重さを感じながら、仲間との学びを通して自らを鍛え、人としてのたくましさや優しさを備えた生徒を、力強く自らの人生を切り拓いていける人づくりを、この伝統ある寺井中学校における教育活動を通じて育んでいきたいと決意を新たにしております。

最後になりますが、今後とも皆様方には、これまでと同様、ご指導とご鞭撻をお願い申し上げますとともに、寺井中学校が益々発展するよう努力することをお誓いし、式辞とさせていただきます。

令和二年十一月二日

能美市立寺井中学校長

西 田 誠 一